

# インド留学記

その9

## 水の都

### スリナガル(1)



東方学院講師  
駒女短大講師  
阿部 慈 園

1

プーナの猛暑を避けて、カシュミールの州都スリナガルに遊んだのは、インド留学二度目の夏を迎えた一九七六(昭和五二)年四月のことでした。その年、プーナは三月初頭から暑くなりはじめ、四月二〇日にはすでに日中の最高気温が摂氏四〇度を超えていました。実にわれわれの体温より高いのです。ちよつと外歩きをする

だけで、グッタリしました。暑熱が体力をいぢるしく消耗させるのです。体内の水分を補うために、わたしはふだんよりよけいにお茶(インドティー)やコココーラをのんだものでした。名古屋大学から留学していた日野紹運氏(現在岐阜薬科大学助教授)と二人で、四月二五日プーナを発ち、ボンベイに二泊、デリーに一泊して、スリナガル入りしたのは二八日でした。スリナガル空港は、少しきつい日ざしをほおに感

じましたが、空気は冷たく澄んでいました。桃の花が白く咲きみだれ、チューリップとヒヤシンスが遠来の二人を出迎えてくれました。思わず「北へ来た」ということばが口を出しました。緯度的には、スリナガルと日本とはほぼ同位置にあるのです。

急に肌寒さを覚えたわたしは、バッグからカーディガンを取り出し、身にはおりました。現地の人たちとは見れば、かれらは厚手のウールのスーツとか、手を首だけ出せるポンチョのようなマントを着用していました。

2

カシユミールへは、留学中ぜひとも行きたいとわたしは思っていました。インド人も「一生のうちに一度訪れることが夢だ」といいます。「インドのスイス」などという人もいます。インド人に最も人気の高い映画の一つ「ボビー」

の舞台も、ここカシユミールでした。この映画を留学中たしか三回見たことを記憶しています。

州都スリナガルは「吉祥の町しあわせ」という意味ですが、とりわけ湖と川の多い町でもあります。それゆえ水が豊富で、空気は清く澄み、夕焼けが川面かわもに映えるさまは、乾いていて、生活に厳しいインドをしぼし忘れさせるものがあります。「水の都スリナガル」と呼ばれるゆえんは、そこにあるといえましょう。

われわれは一カ月と少し、スリナガルのダル湖に浮かぶハウスボートに宿泊しました。ハウスボートというのは、ボート(中くらいの船を想像してください)がそのまま宿泊設備をもってあるもので、いわば水の上に浮かぶ家であります。われわれの泊まったボートは一日三食ついて、三〇ルピー(当時のレートで約一〇〇〇円)でした。宿泊費の交渉は、すでにプーナで日野

氏がしてくれました。そのハウスボートの主人は、ヒンドゥー教徒ではなく、回教徒(ムスリム)でした。

3

朝食には、カシュミールパンとオムレツ、それにインドティーが出ました。たまたま、カシュミールティーをオーダーしたこともありましたが。カシュミールティーは、ミルク抜きで、舌にさわやかな味がします。シナモンやカルダモンを入れるとさらにかおりが増します。カシュミールパンは、やや大きめで、平べったい形をし、やわらかくて、当地のハチミツをつけて食べるとさらにうまく感じました。

昼食や夕食は、マトンのカレー煮、ナスの油いため、トマトと赤カブとタマネギのサラダ、キヤベツの水たき、それにライス(恐らくカシュミール産であろう)などが、主なメニューでした。

た。羊の肉のかわりに、鳥肉・卵・魚が出てくることもありました。マトンやチキンには骨がまともについていて、食べ慣れるのに一〇日はかかりました。

4

回教徒は豚肉(ポーク)を食べることはタブーであるが、牛肉(ビーフ)を食べること(ヒンドゥーはタブー)は許されていると聞いていたので、かれらが多く住むスリナガルではビーフが食べられると楽しみにして来たのですが、州政府は牛肉の販売を禁止していると聞き、いささかガツカリしました。政府の役人のほとんどがヒンドゥーですから、かれらの食習慣を住民の八〇パーセントをしめるムスリムにも押しつけているのです。

でも、ハウスボートのおやじは、一日われわれのためにいなかからこっそり手に入れてきて

くれました。調理されたビーフを、われわれは期待をもって口に運びましたが、日本のビーフステーキの味、またボンベイやデリー（プーナでも食べられる）の一流レストランで供される味にはほど遠く、日野氏とわたしは思わず目を合わせたものでした。しかし、イーダブル (eatable) ではありません。

また、わが国にあるのとほとんど同じエンジ色の大豆もあり、これが塩だけで調理されて食卓にまみゆるのには、いささか驚きました。トマトは、スライスして塩をふりかけて食べられるだけでなく、小さくてかわいい完熟トマトは調理用の石でつぶして、コシヨウなどとともに調味料の一つとしても使われていました。

(つづく)

